

X . インターロッキングブロック工事

1) 総則

a . 適用範囲

本節は、サンドクッション
ックを用いた、建築物周辺
ない道路などの舗装工事

代工法によるインターロッキングプロ
行者系道路、定常的に大型車が走行し

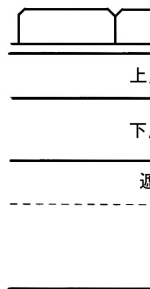
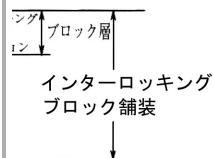


図 - 1 イ



舗装の構成例

2) 材料

a . インターロッキングブロック

(1) インターロッキングブ

	普通インター
	透水性インタ
	植生用インタ
	視覚障害者誌
	厚さ 60mm
	厚さ 80mm

	ロック

(2) インターロッキングブ

(3) インターロッキングブ

(4) 重量

	規
	N 型 (100 × 2
	S 型 (100 × 1

寸法は特記による。
は設計図書による。

kg/m ²	
	130.0
	130.0

b . 砂

(1) クッション砂は、5mm

最大粒径	
5mm	5%以下

内容イメージ

(2) 目地砂は、2.5mm 以下の細砂とする。

(3) 砂はシルトや泥分が少なく、ごみ、小石などを含まないものとする。

(4) 近年透水性を重視した
浸入することによる砂の
ある。

(5) マンホール回りなどの

(6) インターロッキングブ
と、ブロックのかみ合わせ
うに敷設する。このよ

大粒径
2.5mm

・シルトや粘土分など

3) 施工計画

a. 準備

- (1) 施工に当たっては、あ
- (2) 必要に応じインターロ
- (3) 施工に先立ち、路盤の
の据付け状態を確認す

b. 割付図

- (1) 目地幅は 3mm を標準
- (2) 施工上必要な割付け図
- (3) 割付けを行う場合は、
ユール寸法とする。

コン
アスファ

図 - 2

非水性の向上や、クッション砂に水が
砕石(最大粒径 5mm)を使用する場合も

では、空練りモルタルの使用はさける。
ク同士の競り合いによる角欠けの防止
ため、標準として 3mm 程度となるよ
は以下の性能が要求される。

通過分

どを含まないものを使用する。

監理者に提出する。

提出し、監理者の承諾を受ける。

ードレールなど、付帯施設および縁石

図を作成し、監理者の承諾を受ける。

3mm を加えた寸法をブロックのモジ

ングブロック

80
30

オン

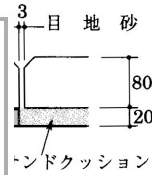
割付け部

ストレートタイプ
 インターロックングブロック インターロックングブロック
 (150×200×90) /

アスファルト

路

図 - 3



ジョイント部

c. 舗装構造

(1) 路盤

- ・路盤材料は、最大粒径が 20mm 以下とする。
- ・定常的に大型車両が通行する場合は、路盤に粒度調整砕石を 10～20cm 使用する。
- ・路盤材料には、可能であれば、凍上抑制層を 10cm または 15cm で施工する。

(2) 路面の排水勾配の標準

用途
園路・歩行者・自転車道
広場・グラウンド類
車道

(3) フィルター層

雨水が地中に浸透するのを防ぐために設ける。川砂や山砂を使用する。

(4) サンドクッション層

の流出による不陸を防ぐ。100g/m²を標準とする。

(5) サンドクッション層

上のスロープ面や化粧面には、空練りモルタルを使用する。セメント：砂は 1：3 現場で混合させる場合、施工面積の広い場合は

を使用する。その厚さは、設計図書に示す。支持力（設計 CBR）に応じて上層路盤砕石を 10～20cm 使用する。

凍上抑制層の厚さは、一般的に 10

、軟弱な路床が路盤中に浸入することを標準とする。フィルター層には、

透す際に、クッション砂が路盤層へ流出しないよう、透水シートを敷設する。透水シートは、重さ 60g/

を使用する。ただし、縦断勾配が 8%以上の場合、下記の点に留意する。

- ・セメントを使用しよく混ぜ合わせる。
- ・乾燥させたものを使用する方法もある。

4) 施工方法

a. 路盤の仕上がり状態の確認

- (1) 路盤の凹凸が大きいと認め、路盤面は基準高さの範囲で仕上げられているか
- (2) 路盤面のレベル確認と
- (3)(1)および(2)より路盤面に不均一が生じやすくなるため、路盤面は基準高さの範囲で仕上げられているか
- (4) 路盤材の敷きならしに当たっては路盤材の間に隙間が生じないように均一に敷きならすと同時に、乱さないように施工する。

b. インターロッキングブロックの施工

ブロックカッター (重量 10kg)



小型運搬カート (重量 10kg)



積載荷重 15kg

坂敷機 (重量 4kg)



レート (重量 58kg)



一輪車



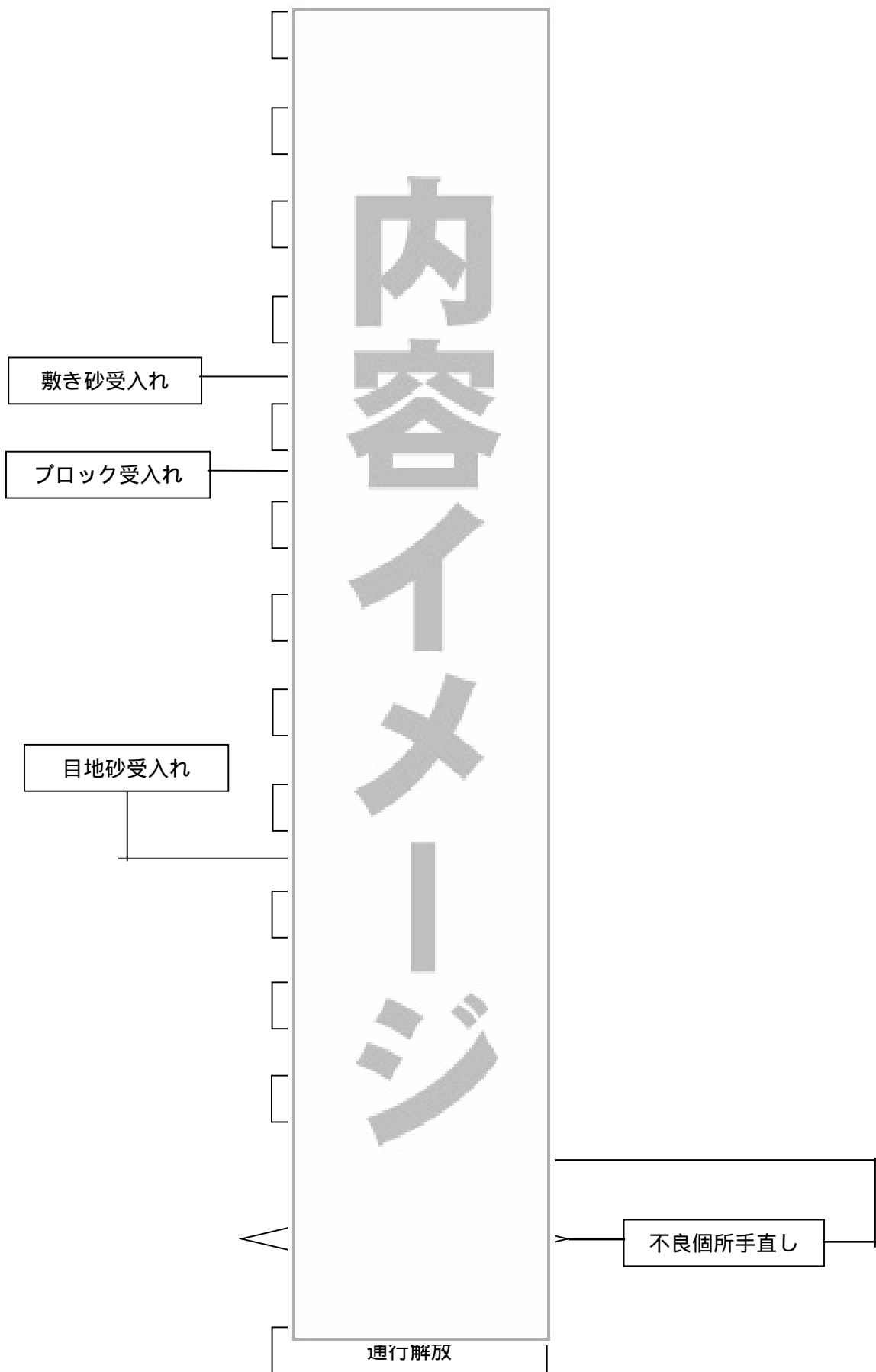
内容イメージ

不均一となり不陸が生じやすくなるため、路盤面は基準高さの範囲で仕上げられているかを確認する。

確保されているかも併せて確認する。必要に応じて、周囲と同じ路盤材を補足して十分に締め固める。

均一に敷きならすと同時に、乱さないように施工する。

c . 施工フロー



d. レベル出し

(1) レベル出しは、丁張りを設置し、水糸を張ってブロックの仕上がり位置を設定することを標準とする。ただし、縁石や境界ブロックは、縁石や境界ブロックの天端より低い場合に出しすることにより、仕上がり位置を設定する。

(2) 排水勾配に加え、L形よう舗装勾配を設定する。

e. クッション砂の敷きならし

(1) 適当な間隔でクッション砂を積み置きすると、仕上がりに少量を多くの箇所に均等に敷きならし

(2) クッション砂の敷きならし圧代は通常 1～2cm である。

(3) クッション砂は、次に道路以外では、車両走行を転圧した後に、敷きならしインターロッキングブロックを引き、それに砂の転圧を決める。

2本のならし板ガイドをクッション砂を入れた後、ならしを形成する。

エッジガイドを除去し

f. ブロックの敷設

割付図に基づきブロックの敷設

(1) 割付け図をもとに、ブロックの敷設位置を直線で設置されている水糸を水糸で設定する。直角定規を用いる。

(2) ブロックの敷設は基準

(3) ブロックを敷設するときは、インターロッキングブロックに強く押し付けて垂直に下ろす。これにより適度の目地幅を確保すると同時に、サンドクッションの上に平坦にブロックを敷設することができる。この際、既設の最前列のインターロッキングブロックに足を乗せる

内容イメージ

や境界ブロックの天端より低い場合に出しすることにより、仕上がり位置を均等に敷きならし、雨水ます等から雨水が排出される

反置きする。この際、一箇所に多量に敷きならし、厚さが異なって不陸の原因となるのを防ぐため、あらかじめクッション砂の厚さに転圧代を加えた厚さとする。転

均等に敷きならす。ただし、歩行者系を妨ぐため、あらかじめクッション砂

、インターロッキングブロックの厚さにしてサンドクッションのならし高さを

の天端を所定の高さに合わせ、クッション砂を滑らせてならし、均一なサンドクッション

とする。

る基準点を設定する。できるだけ長い基準点を通り、直交する2本の基準線を用いる。

て目地ラインを決めてゆく。

に強く押し付けて垂直に下ろす。これにより適度の目地幅を確保すると同時に、サンドクッションの上に平坦にブロックを敷設することができる。この際、既設の最前列のインターロッキングブロックに足を乗せる

と仕上がり後の平坦を損ねる原因となるので注意する。

- (4) 目地調整は、目地通りの修正と目地幅の調整に分けられる。目地通りの修正は、縦横に直交する糸を張り、これを引込んで修正する。目地幅の調整は、目地幅調整用ワイパーなどを差し込んで調整する。

- (5) 路面施設や縁石回りでは、目地幅調整用ワイパーのクッション厚の過大により、目地幅調整が十分にいき、また、カットがうまくいかないことがある。

- (6) 歩道の切下げ部分などでは、目地幅調整用ワイパーのクッションを緩やかな目地幅調整用ワイパーの曲線になるように調整する。

g. 転圧

- (1) インターロッキングブロックの転圧の際のコンパクターの種類によって異なるが、必ずコンパクターを用いる。

- (2) 転圧の速度は歩く速度で行う。ただし、敷設面積が広い場合は、コンパクターを用いることができる。

f. 目地詰め

- (1) 目地詰めは、目地砂が十分に充填されること。
- (2) 目地砂はブロックの目地幅に合わせ、ブロック層を舗装する前に目地砂を十分に充填すること。

- (3) 目地詰めの一時的な手間は、目地砂を十分に充填すること。目地砂を十分に充填すること。目地砂を十分に充填すること。

h. 仕上がり確認

施工後、ブロックの破損や目地砂の不足を確認する。

- (1) インターロッキングブロックの形状・色・表面加工・端部の処理を確認すること。
- (2) 敷設されたインターロッキングブロックの角欠け・変形・きず・ひび割れがないこと。

- (3) 目地砂が十分に充填されていること。

- (4) 個々のブロック間に 3mm 以上の段差がないこと。

- (5) ブロック舗装面の勾配は設計図書に指示されたとおりに施工されていること。

内容イメージ

目地通りの修正は、縦横に直交する糸を当て、木槌でたたいて押等によりブロックを前方に移動させて不足が生じている箇所にパールやドラ

目地物やマンホール周辺ではサンドクらの箇所では、路盤表面の目つぶしをできるだけ使用しないような配列を

る箇所のすりつけについては、サンドインターロッキングブロック舗装面が滑

確保できるまで十分に行う。

インターロッキングブロックの形状や敷設パタクの長手方向に対して直角を原則とす

転圧には専用のコンパクターを用いの振動ローラを用いると効率的におこ

ブロック相互のかみ合わせ効果を生じ役目をもっている。

撒く。

して砂を目地にすり込む。

返す。

目視により確認する。

割付け図に指示された形状・パターンこと。

なるブロックの角欠け・変形・きず・

(6) 目地の通りが確保されていること。

(7) 縁石やマンホール等の路面施設、他舗装材との取合い部で隙間や段差が大きく生じていないこと。

(8) ブロック表面に残った

るので、きれいに掃き取られているこ

内容イメージ